
桜

朝昼夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

桜

【コード】

N2901Q

【作者名】

朝昼夜

【あらすじ】

携帯向けに、書いた。

人がいないんだって、その街には。

だけど街は毎日生きていて、がんばってるんだって。

不思議な話だよね？

そうだよねえ。

そんな街に一人の女が訪れた。

女は全身着ぐるみで身を固めていて、しかも右手が光っているんだって。

着ぐるみを着ているのは光を目立たないようにしているからなんだって。

もちろん、彼女が着ぐるみが好き、という理由が一番なのだろうけれど。

その日彼女は緑の怪獣の着ぐるみを着ていた。

街はビルとか信号機とかってな感じで現代的。

そんな街を彼女は一人で闊歩してる。彼女以外には人はいないよ。

一人ぼっちだ。だけど、寂しい話なのだろうけれど、空にカラスは飛んでいたんだって。

右手が光っているのは、彼女が『罪深い人』だからなんだって。

昔たくさんの人を不幸に陥れたから、彼女はその責任を感じてしまつて右手を光らせたんだって。それから彼女は人と一緒にいれなくなつて、一人で生きているんだって。

だけどわざわざ自分で光らせることはなかった。もちろん、自然

と光ってしまう人もいるのだから。だけど、彼女は自分で光らせてしまったんだって。それが一番楽だったから。

ある日、街に桜が咲いた。春だったんだね。

そこら中が桃色の花びらに満たされて、普段は灰色で空虚な街々が、とつても美しく色どりを持つことが出来た。怪獣の着ぐるみを着込んだまま、彼女は街を踊りはしゃいで走りまわったのだそうだよ。全身で喜びを表していたんだって。普通はやらないような動きで表現していたんだって、喜びを。

カラスたちは、電線で羽を休ませながら、そんな彼女を見つめていたんだって。

することもないから、怪獣を見て暇つぶしをしていたんだね。

でもカラスたちは知っていた。

桜の花びらが舞い散る時には、人が失われていくってことを。

桜に人々はリセットされてしまっただって。かつてこの街で生きてきた人々も、桜に全て命を奪われてしまったんだって。

桜に。

ある日、彼女は着ぐるみを着たまま、街で遂に息を引き取ってしまっただって。

桜の木の下で、幹に寄りかかりながら呼吸をしていないんだって。

でも街にはカラスしかいない。人間に手厚く葬ってもらうこともない。

だから、カラスに死肉をむさぼられてしまいかもしれない。だけど、大丈夫だった。

カラスたちは、彼女の亡骸に足をつけることはあつたけど、嘴を突き立てることはしなかつたんだって。怪獣の宿木。カラスたちは彼女の亡骸のことをそう呼んでいたらしい。

街の人間たちは全ていなくなった。桜の花びらが、再び散ってしまつたって。

ある日スコップを武器にしている体格の良い男が、街を訪れた。

彼は一人ぼっちだったけれど、それを覚悟で旅をしている人間だった。

彼は空を見てカラスたちを見つけた。カラスをスコップで殺せれば食事に関して助かるかな、と思っている彼は、つまり腹が減っていたんだって。何でかっていうと、彼は弱かつたのです。強い男は虎を食べるけど、彼は弱いからカラスが限界。

腹が減っているから今にも泣きたかつた彼は、道の途中で怪獣の着ぐるみを着た亡骸を見つけた。その亡骸は死んでいるはずなのに、全然腐っていないかつた。

不思議だな、と思って男は近づこうとしたけれど、男が亡骸に近づくことを、カラスたちが許さなかつた。

「なんだよ貴様ら」

でも男はチャンスだと思つた。カラスは上空にいたら倒すことが出来ないが、今や男とカラスの距離は武器のスコップが届くほどだ

った。

「てやあ」

カラスはしかし素早い動きによって男のシャベルをよけてみせた。そして男をカラスは食べてしまったんだって。男が食べたかったのに逆に食べられてしまったなんてなさけないね。全身くまなく食べられてしまったんだよ。

怖い話だ。

着ぐるみはやがて桜になったそうだよ。
そこには今でもカラスたちが住んでいる。
桜は再び咲く。何度だって咲く。

別にどんな意味もない。
そういう話が昔、あったそうだよ。
おしまい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2901q/>

桜

2011年1月26日10時37分発行